

発行元
東京新聞
南千住東口専売店
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたうん



第312号

平成27年

2月4日

絵を描きましょう。
ユニバーサル アートピックス

「誰でも絵の好きな人が学び、展示して心豊かな生活を」

毎月第4金曜日の午後7～9時、アクロス（町屋）にて「ユニバーサル アートピックス」のすずきとしおさんは黒須さんと共に絵の援助指導をされています。年1回、東京芸術劇場で開催している絵の展覧会は21回を迎えました。「一人ひとりが持っている良さを見て引き出す」

年齢、性別、障害の有無などに関わらず、誰でも参加できます。

絵を描くことは、声に出して話すことや楽器演奏することや歌を歌うことと同様に自分の内側から湧いてくる自分を表現したいという気持ちを現す様々な形の一つです。誰からも強制されません。まったく自由です。やりたいからやる。やらずにはいられない。動ける足だけでパソコンを操作して、自分を表現されている方もおります。

「描きたいものを描く」

すずきさんは、あらかわ希望の家（18歳以上の知的障がい者の方を対象に、生活指導・作業指導などを行う）

にて週1回絵の指導に行かれています。

「聞かれれば感じたことを言います」

技法や指導する人のやり方で進めてしまおうと描いている人の本来の絵でなくなる恐れがあります。

丸を描きたいのにうまく描けない人にはそつと手を添えたり、紙を動かしたりして、その方の望むイメージに近づくように支えていきます。

「絵の原点は子ども絵ではないでしょうか。」

心の内面が無意識に表れた絵に、人は共感して感動します。すずきさんは、感動できる要素を作り出す力を引き出すことが援助ではないかと考えています。

描き完成した絵は達成感をもたらし、また、多くの人に見てもらおうことで相手に感動を与え、共感してもらおうことで喜びとエネルギーをもらえます。



藤沼誠さんの作品

「おおかんガルの親子」は、障がいのある藤沼さんの作品です。

「感性和偶然性の中から感動が生まれる」

すずきさんにお話を伺ったアクロス

（町屋）に希望の家の利用者の方の絵が飾ってありました。色遣いの美しさに思わず「いいなあ」と見入ってしまった。自然と笑みがこぼれて豊かな気持ちになりました。

また、すずきさんの柔らかい優しさに寒さを温めて頂きました。

下手だから、人に見られるのは恥ずかしいと絵を描くことに躊躇される方多いですよ。

ポスターカラーやオイルクレヨンも百円均一でも手に入ります。好きな色は何ですか。自分を表現して見ませんか。

アクロスあらかわは都電「町屋7丁目」から徒歩3分の所にあります。写生会もあります。

月に1回、絵を描いてみませんか。色々な世代、状況の方との交流の中で知らない自分の世界に出会うことができます。

写生会もあります。手を動かし、心を動かして自分を形にする。脳の活性化にも繋がりますね。

ユニバーサル アートピックス

第4金曜日午後7時～9時

アクロスあらかわ

年会費千円

お問合せ TEL & FAX (3805) 5111

すずきさん